

事務長挨拶

佐藤 雅之



新型コロナウイルス感染対策に世界や職場が翻弄される中、事務長を拝命し早3ヶ月が過ぎました。準備不足を悔やむ間もなく、全く経験のない仕事に振り回されることとなりました。本来、穏やかに過ごしたい「平和なおじさん」なのですが、どうやらそんな時期が来たのでしょうか。

「若い頃はよかったなあ。」「毎日が楽しかったなあ。」という思い出が私にも沢山あるのですが、今更ながら上司、先輩のお陰だと思っています。あの頃も大変なことがいくつもあり、先輩たちが必死に対応していたはずで。私が見えないところで汗をかき、必死に踏ん張っていたはずで。

どうやら“のぼほん人生”の私にも、やっとその恩返しをする時が来たのだと思います。力不足と資格もない私ができることは、皆さんの笑顔のため、やりがいのある職場にするために、先ずは「動く」ことだと考えています。不意に襲い掛かってくる難問に、頭の中が真っ白になりヨレヨレになろうとも行動するだけです。多分やさしい職員の皆さんが、危なっかしい私に手を貸してくれるだろうと信じて…(笑)

抱負を要望されましたが難問です。まだまだこの先も魅惑の未体験が沢山あるでしょうから…。一年ほど時間をください(笑)

先日、新型コロナウイルス感染による物資不足の中、多くの方々そして諸団体からマスク等のご提供を頂きました。末尾ではありますが、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。二波、三波とまだ終息が予測できない状況ではありますが、感染拡大阻止を見据え地域医療に努める所存であります。

「健康マイレーJIN」で元気に働き感染防止!!

人々の健康を支援する私たちは、自らが心身ともに健やかでいることが大切で、当院は職員の健康づくりを支援する「健康マイレーJIN」を導入しています。職員が仕事と私生活のバランスを保ち、食生活の改善や運動の習慣化、心の健康などに取り組むとポイントが加算され、30ポイントで表彰されるしくみです。(副賞もあります)



昨年度までは、町内の「盆踊り大会」や「鳥海ソーデーマーチ」への参加もポイントの対象としていましたが、今年は中止になったと聞きとても残念に思っていました。

そこで、今年度はあらたに新型コロナウイルスの院内感染防止のための職員一人ひとりの基本的な感染対策や「新しい生活様式」の実践もポイントの対象にいたしました。コロナに負けず、暑さに負けず、声掛けあって「健康マイレーJIN」!!

(勤務環境改善委員会)

「With コロナ」

副院長 麻酔・疼痛緩和科 佐藤 裕



「With コロナ」という題で記事を書くように依頼を頂きました。コロナとともに、「コロナと一緒に」という意味かと思いますが、これはなかなか難しい問題です。今回の世界的な感染爆発は、百年ぶりととも言われ、現代の私どもが経験したことのないものでした。しかし、感染症の常として、目に見えない病原体の広がりを抑えるには、私たちの想像力を働かせて「ヒトから貰わない」「ヒトへ移さない」心掛けが必要になります。

世界で初めて開腹手術で卵巣腫瘍の摘出に成功したのは、大都會の設備の整った大病院ではありませんでした。アメリカの片田舎に住む婦人の住む農家の台所が舞台でした。家族と一緒に食事をする長い大きなテーブル(今でも英語では手術台をオペレーティングテーブルと呼びます)の上に患者さんを寝せたのです。執刀したのは馬に乗って往診してきた開業のお医者さんでした。一目見て患者さんのお腹の中の塊(卵巣腫瘍)を取り出し、落としともなく囊腫が破裂するが、呼吸困難で命を落とすことが目に見えていたのです。このお医者さんは母親が敬虔なキリスト教徒で、とてもきれいなきな方で、お医者さんが子供の時から、食事の時はいつも石鹸で手を洗うように厳しくしつけていたそうです。それでお医者さんは台所の食事テーブルを

前に立つて、いつも食事の前にするように「丁寧に手を洗って」からメスを執ったのです。消毒法も十分に分かっていなかった時代、しかもこの手術は麻酔がなしに行われたそうです。患者さんはよく痛みを耐え、お腹の腫瘍はきれいに取り出され、お腹は元通りに縫い合わされました。術後数日僅かな発熱と傷口の膿は見られたそうですが、当時こうしたことは手術では当たり前に起きると考えられていました。患者さんは無事回復し、さらに子供さんまで授かったそうです。

現代の私たちには消毒法や麻酔法は当たり前のものでなくなっていますが、消毒法一つとっても目に見えないだけに、どんな風にも「行こうか、適切に行うにはどのようしたら良いか、分かっていても身を守るのに十分な防護具があるか、日々確かめながら医療を行う必要があることは百年前と全く変わらないのです。

新型コロナウイルスは、そこにある事を確認するPCR検査などの方法も完全ではありません。感染予防のためのワクチンもまだ完成していません。有効といわれる治療薬も間違いなく証明されたものがまだほとんどありません。

それでも人の移動、経済活動をまったく止めては社会が成り立たなくなる、として日本でも緊急事態宣言は解除され、人や物の移動制限がなくなり

新病知敬

つづります。しかし、当然ながらまだウイルスは日本から、世界から消えてしまっているわけではないので、正しく恐れることが大事です。「コロナの無い時代」に戻ることは、もう考えられなくなっています。「コロナとともに生きる」地球の上に私たちは住んでいるのです。

基本は今日耳慣れた言葉になっている、手洗い「マスク」「三密回避」(最近では密集・密閉・密接の三密に加えて、秘密(の場所)を避けるよう「四密」という呼びかけもあります!)「ソーシャルディスタンス」を患直に守ることです。ワクチンや有効性が確かめられた治療薬が現れるまで、私たち自身と大切な同僚、家族や入院中の患者さんたちが感染と無縁でいられるために、これらの基本を続けましょう。

山形働き方改革 取り組み事例集に掲載

山形労働局では、県内の企業を対象に、平成27年度から働き方改革に関する取り組みを進めるための活動を展開しています。そこで当院でも取り組みを行っている企業として、事例をホームページで紹介して頂き、事例集として掲載して頂きました。ぜひご覧になってみてください。

地域医療連携室からお知らせ

平成28年から開催しておりました介護家族の会(あじさいの会)ですが、昨今の情勢を鑑み休会する運びとなりました。現在は感染症対策のため来院の制限などもあり迷惑をおかけしておりますが、介護・医療などその他ご相談の方は電話やメールでも対応いたしております。お気軽にお問い合わせください。また、ショートステイの受け入れについても様々な制限でご迷惑をおかけしております。利用は従来通りですが、体調管理や周辺の情報について引き続き細かくお聞きしております。場合によっては、利用についてご相談させていただくこともあるかもしれませんが、よろしくお願いたします。

◎お問い合わせ
 メールアドレス yuzahpsw@yahoo.co.jp
 電話 0234-72-2522(代)
 医療相談員まで



スタッフ紹介



(2病棟 看護師 五十嵐里枝)

4月から2病棟に勤務しています。それまで日本海総合病院のHCUに勤務していました。急性期病棟のため、24時間心電図モニターでの監視や緊急手術などの対応に追われる日々を送ってきました。体力的に厳しくなったこと、3人の子ども達が成人し自立したことなどをきっかけに退職を決意しました。

療養病棟は初めてで不安もありましたが、スタッフが優しく親切でようやく仕事にも慣れてきたように思います。患者様は寝たきりで意思疎通が取りにくい方が多いですが、一人ひとりの目線に合わせ声掛けを行い、患者様を尊重し丁寧なケアの提供を心掛けたと思います。

ワークライフバランスが充実しているため、時間外勤務もなく自宅での時間を有効に活用しています。特に猫と一緒に過ごすことが今の一番の癒しの時間です。猫のためにも末永く当院で働きたいと思います。



(訪問看護ステーション看護師 佐藤幸恵)

桜が散り鳥海山に種まき爺さんの雪形が見えてくる頃、ご縁があって遊佐病院で働かせていただくことになりました。看護師として新たな経験を積ませて頂けることに、本当に感謝しております。田植えが終わり、すくすくと育つ緑色の田んぼの中を、酒田から鳥海山へ向かっての通勤はとても新鮮で、朝からちょっと得をした気持ちにさせてくれます。

幅広い年齢層で、いろいろな経験をしてきたスタッフの中で働かせて頂き、温かく見守ってくれ、元気をもらっていると感じております。今までの様々な経験を活かして頑張りたいと思いますので、皆様よろしくお願ひいたします。



(2病棟 看護師 松本愛)

当院の奨学金制度を利用し、3年間新潟の専門学校に通いました。入職前は初めての社会経験ということで、病院の雰囲気や人間関係などに不安を抱えていましたが、アットホームな職場で新卒の私でも自分の考えを意見し、やりたい看護を実践することができています。臨床経験がなくてものびのびと仕事が出来ている背景には、心強い先輩看護師の支えがあるからです。当院にはプリセプター制度があり不安なことや迷いがある時はプリセプターに相談します。また、固定チームナーシングを行っていることで、チーム全体で情報を共有し多くのことを日々学んでいます。さらに当院はワークライフバランスに力を入れており仕事と休息の切り替えをしっかりと行えています。豊富な特色ある当院で患者さんにとって最適な看護を提供できるように努めていきます。



(1病棟 介護員 須藤真美)

5月に入職しました。にかほ市象潟町在住で主人と猫3匹、大型熱帯魚数匹と錦鯉、金魚を愛でております。短大を卒業し、保育士として働いておりましたが、縁あって介護の道を進むことになり、5年が経ちました。出会いと同じだけの別れを経験しましたが、一つとして同じものはなく、一つひとつに想いがあります。新しい環境に不安はありましたが、皆様に声をかけて頂き、ご指導頂く中で、日々学びや気付きを得ております。これからも耳と心を傾け、人として介護職として成長していけるように努めてまいります。



(2病棟 介護員 佐藤陽子)

今年の4月から介護員として勤務しております。介護の仕事はこれまでも経験はあるのですが、病院で働くのは初めてです。早く仕事を覚えて皆さんのお役に立てるように頑張ります。

「ナースを支えるスタッフ」 介護補助員の役割



遊佐町は高齢化率が非常に高いですが、いきいきと元気なシニアで溢れていることを目の当たりにしています。

今年4月に入職した菅原優さんもその一人です。菅原さんはシニアスタッフ(介護補助員)として、看護師や介護員が患者さんのお世話に専念できるよう縁の下の力持ちとなり支えてくれています。例えば、ショートステイの送迎のドライバーやケア物品をすぐ使えるよう病室に補充する、治療で使った器具類を回収し、洗い消毒し供給する等です。この他、新型コロナウイルスの流行で不足したフェイスシールドを菅原さんが手作りしてくれ本当に助かりました。菅原さんのお陰で私たちは患者さんと向き合う時間が持てるのです。

週3回半日の当院での仕事以外にも趣味の野菜や地域での役割も担っているとのこと。いつも背筋の伸びた姿勢で誠実な菅原さん。歳を重ねながら当院で私たちを支え働き、生活を充実させている菅原さんは人生100年時代の理想的な先輩です。

看護部長室師長 佐藤里沙



介護補助員になり早くも3ヶ月が経ちました。入職当初は初めてのことがばかりであつという間でした。出来ることが増えていく一方で、ミスをしたり課題が増えたりしていますが、職員の皆さんが親切に教えてくれるので有難いです。病院で働くことはこれまで経験してきた業種とは違いますが、人から感謝されることが嬉しく新鮮な気持ちでシニアスタッフとして働いてよかつたと感じています。

介護補助員 菅原優

「インターネットを活用した面会」 を開始して



当院ではインフルエンザ感染対策から、新型コロナウイルス感染対策に移行し、長い期間面会禁止措置を取らせて頂き、患者様やご家族様には大変迷惑をおかけしております。
このため、インターネットを活用した面会を5月19日から開始いたしました。ご家族様から当院に来院して頂きアイパッドを用いた面会と、自宅から当院にライン電話をして頂く2種類の方法で実施しております。
ベッド越しですが久しぶりに面会して頂き、ご家族様は一生懸命声を掛けて、患者様もご家族様の声に安心した表情をされていらっしゃいます。面会後はご家族様からは久しぶりに患者さんの顔を見ることが出来た喜びや、面会を企画した事への感謝さんのお言葉も頂戴し、私たち職員もやつて良かったなと思うところです。現在まで15人の患者さんから利用して頂いており、今後も患者さんやご家族のご希望に沿い、限られた時間ではありますがインターネット面会を継続できればと考えております。今後も感染対策に万全を期して参りますので、ご理解をお願い致します。

(2病棟師長 佐藤典子)

あとかき

2年前に大阪北部地震、西日本豪雨の災害を受け自然の怖さを実感したばかり。今年は九州地方の豪雨による災害。梅雨前線とは慣れ親しみがあっても、線状降水帯とはここ数年で使われるようになったような気がします。新型コロナウイルスに加えて自然災害。今年は本当に大変な年です。自然の災害には太刀打ち出来ませんが、ウイルスには「うつらない」「うつさない」を意識すれば感染予防に繋がります。県内の感染も少ないですが、今後も一人ひとりが意識して感染を防ぎましょう。災害に合わせた方々には一日も早く元の生活に戻れるよう心からお祈り申し上げます。(M)

「やまがたイクボス同盟ウェブアクション」に参加しました。



私は数年の社会人を経た後に看護の道を目指しました。再び上京したり県外に出たりとくつかの院所で経験を積ませて頂き、当院での勤続年数が一番長くなりました。そのほとんどは外来勤務です。当院の外来業務は多岐にわたりますが、当外来であればこそ多くのことを学ばせて頂きました。今後は患者様やご家族の方が、少しでも軽やかな心持になれるような看護を目指していきたいと思ひます。



この度、山形県看護功労者知事感謝状をいただきました。誠にありがとうございました。ご報告いたします。
フナナサポーターナース 鈴木康子

「山形県看護功労者知事感謝状」